

分子科学研究所所長招聘会議『次世代型元素戦略を考える』

日本学術会議化学委員会・化学企画分科会及び日本化学会の共同主催で、ハイブリッド形式による分子科学研究所所長招聘会議『次世代型元素戦略を考える』が6月15日（木）に開催されました。今年のシンポジウムでは、化学分野における重要課題の一つである「元素戦略」をテーマに、3件の講演及び総合討論が行われ、今後の元素戦略について活発な議論がなされました。会議の開始にあたって渡辺所長から挨拶があり、本会議は2001年から開催され、その時々における重要な学術課題を取り上げて議論を行い、研究者に対してのみならず、広く社会に発信することを目的としている、という説明がありました。

続いて、日本学術会議化学委員会の茶谷委員長から、今回の公開シンポジウムの趣旨説明がありました。経緯として、日本学術会議では、我が国の大型研究計画の在り方について一定の指針を与えることを目的として、3年ごとにマスタープランを策定してきたのですが、今期は従来の「マスタープラン」は策定せず、新たに今後20～30年頃を見通した「未来の学術振興構想」を策定することとした、との説明がありました。また、化学委員会では化学分野における重要課題の一つである「元素戦略」を提案することとし、我が国が同分野で世界をリードし続けていくために必要な取組を議論した、との紹介がありました。

最初の講演者は豊田理研所長の玉尾氏で、元素戦略が学術研究コンセプトとして創成された段階から、現在の国家プロジェクトに発展するまでの取組について紹介がありました。元素資

源問題をサイエンスで解決するという基本方針は一貫しながら、減量、代替、循環、規制、新機能の戦略5本柱をベースとしたプロジェクトとして、今後ますますその重要性が増してくるはずである、と強調されました。

二人目の講演者は京都大学の依光氏で、「元素戦略 2.0 ～全元素の活用と循環に向けて」と題する講演を行いました。講演では「元素戦略1.0」がフォーカスした戦略の5本柱に照らして成果を評価すると、達成度にはムラがあり、中でも循環戦略と新機能戦略は他の戦略と比較して達成度が低いことが示唆されるとの指摘をされました。そして「元素戦略2.0」でその部分の達成度を上げて行くための戦略が示されました。

三人目の講演者は内閣官房内閣審議官の坂本氏で、「今求められる大学発イノベーションと元素戦略」と題する講演を行いました。ドラッカーの言葉を引用しながら、我が国が目指す未来社会Society5.0においては、データや知識が中心的な資源となって新たな価値を生み出し、社会課題の解決や経済発展をもたらすと考えられる、との

指摘をされました。またこれに伴って、大学にはこれまでの教育・研究に加え、知識を活用して社会課題の解決に積極的に貢献するという新たな機能が求められるとのことです。根本原理の追求と用途の考慮とを両立した「パスツール型研究」がひとつのアイデアとして紹介されました。

その後の総合討論では、学術会議の所氏の司会の下で活発な議論が行われました。元素戦略の成功要因について、社会環境やそれにともなう課題・ニーズは時代とともに変化する一方で、サイエンスの追求という基本方針は関係者間で意識統一が強くなされていたことや、元素研究は分野を超えて共通性が極めて高く、個別論の枠に収まらなかったことなどが挙げられました。参加人数は対面で20名超、オンラインでは約90名（一部重複含む）であり、ハイブリッド開催が定着してきた感があります。最後に本会議の運営にご協力いただいた分子科学研究所のスタッフの方々に心から感謝申し上げます。

（山本 浩史 記）

